

2020年9月20日発行

第24号

◇ 運営の理念 ◇

いつも明るく
物事を正しくわきまえる
そして人と仲よくできる
子どもを育てる事を
理念とします

学園通信

杉の子



発行

社会福祉法人

光明会杉並学園

〒168-0081 東京都杉並区宮前 3-10-8

TEL 03-3334-4941

FAX 03-3334-7905

HP アドレス

<http://sugigaku.web.fc2.com>

つながりを大切に 施設長 麻生 信也

新型コロナウイルス感染症の影響は日常の暮らしにとどまらず、雇用や経済、教育など多岐にわたるうえ、時間の経過とともに拡大しているようです。そして、どうやら短期決戦とはいかず、拡散の時期と停滞の時期を繰り返しながらも長期化する様相を見せています。

こうした中で、児童養護施設を退所し、地域社会で暮らす若者たちの現状はどのようになっていくのでしょうか。彼らの多くは18歳で高校を卒業すると施設を退所します。頼る親族などもないことが多く、困難な状況も自分の力で乗り越えることが求められます。例えば、何らかの事情で職を失ったとき、もし勤め先の寮で暮らしていれば寮を出なければならぬでしょう。アパートを借りていけばたちまち家賃の支払いが滞り、生活が立ち行かなくなることもあるでしょう。このようなとき、ちよつとの間実家に帰って…となるのでしょうか、施設からの退所者の多くはそうはいかないのです。

杉並学園では、4月初めの緊急事態宣言が発令されたころに、退所者に連絡をとったり、日用品や食料品を箱に詰めて宅急便で送ったりしました。当時は貴重品だったマスクや除菌液なども箱に詰めました。荷物を受け取った退

所者から次々にお礼や近況を伝える連絡が入りました。幸いにも仕事を失ったり、経済的に行き詰まっているといったものはおらず安堵しました。それでも、先行きの見えない状況に不安な気持ちを吐露する様子がありました。しばらく連絡していなかった退所者と連絡がとれ、やんちゃだった当時を知る職員たちは「よかつたね」と胸をなでおろしていました。

ステイホーム期間に、離れて暮らす家族に連絡し、その元気な声や返信にほっとした方も多くいたのではないのでしょうか。周囲からの気遣いの言葉につながりを実感し、なんだか温かい気持ちになったという方もいたことでしょう。私自身もいつもなら気に留めないささいなやりとりにつながりを実感することがあります。児童養護施設を退所した若者にも、多くの若者がそうであるように、「元気な声を聴くだけで安心したよ」と言ってくれる存在が必要なのだと思います。

彼らの成長を見守ってきたからこそ、巣立ったあともつながりを維持し「元気な声を聞くだけで安心したよ」と発信できる存在でありたいと願い、「自立応援金」を立ち上げました。大学等に進学した退所者などを経済的に応援するためです。全ての若者がその

持てる力を十分に発揮できるように、そのための機会が平等に与えられるよう、彼らをあたたく支える文化の広がりを目指したいです。

※社会福祉法人光明会杉並学園ホームページ「自立応援金」
http://sugigaku.web.fc2.com/sugi_spalumni.html

創立九十周年に向けて

来る2023年に当法人は創立90周年を迎えます。23区が「東京市」だった1933年(昭和8年)、混乱する世情の中で保護者を失い雑踏で浮浪児となった子どもたちのため、森芳俊・照子夫妻がここ杉並区宮前の地で私設による保護を開始以来、世紀近くわたり同じ場所であらう児童養護施設を運営してきました。開設当初はスキ野原に建つ一棟の木造平屋だった園舎は、その後の建替えや隣地の取得等を経て、長らく「大舎制」と呼ばれる集団生活に適した形状の建物設備となっていました。時代が平成に入り小規模で家庭的な生活様式が求められる中、既存の建物の部分的な増改築を重ねることで対応してきましたが、園舎の平均築年は40年前後に達し、諸所で抜本的な対策が必要な状態です。この度、創立90周年に際しその記念事業の柱を『本園施設の全面建替え』とし、子どもたちの暮らしや職員の業務環境をより良いものにししたいと考えてお

ります。これまでの杉並学園の歩みを大切に、地域に根差す施設としての自覚と使命を新たにしてい邁進してまいります。子どもたちを常にあなたたかく見守つてくださる近隣の方々のご厚意にお応えするためにも、新たな園舎で次の世紀を迎えられるよう努めて参りたいと思っておりますので、どうぞ今後ともご支援いただければ幸いです。

※杉並学園のHPでは『創立90周年に向けて』として『関係者からの寄稿をもとに学園の歴史を振り返るコーナーを設けておりますので、ぜひこちらもご覧ください。』



S.S.10. 創立当時 (昭和八年十月)

